

### 干ばつ時の対応あれこれ

香川県は瀬戸内海式気候に属し、雨が少なく、古くからたびたび干ばつに悩まされてきました。今回は、昭和 14 年の干ばつ時と、高松砂漠と呼ばれた昭和 48 年に、どのような対応がなされたのかについてお伝えします。時代の変化も感じられると思います。

#### ■昭和 14 年の干ばつ (香川県高松市)

昭和 14 年 (1939)、香川町 (現高松市) では、前年の 11 月から雨が少なく、7 月までの雨量は平年の 55% にすぎませんでした。7 月、県知事は自ら滝宮天満宮で雨乞い祈願を行い、8 月には県から各市町村に雨乞い祈願をするよう通知し、9 月には知事が県下の学校へ学童は日出前と日没前にどびん水を稲田にかけるよう通達を出しました。香川町の高塚山の新池神社でも、竜神信仰にちなんで神官が一週間山上でお籠もりし雨乞い祈願をしました。それでも、稲作は未曾有の被害を受け、収穫皆無のところが多くなりました。この昭和 14 年の干ばつを契機に、香川県は内場ダム・長柄ダムの建設、満濃池の嵩上げなどに取りかかることになりました。<香川町誌編集委員会編「香川町誌」1993 年、讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年など>



#### ■昭和 48 年の高松砂漠 (香川県高松市)

昭和 48 年 (1973) は、7 月から 8 月中旬までほとんど雨が降らないという異常気象となりました。このため、高松市の上水道の水源である内場池、四箇池、奥の池、御殿貯水池の貯水量が低下しました。高松市では 7 月 13 日に第一次給水制限、7 月 21 日に第二次給水制限、8 月 1 日に第三次給水制限に入り、一日の給水時間は午前 5 時から 8 時までの 3 時間となりました。市民生活への影響が深刻になり、高松市では陸上自衛隊の救援出動を要請し、大規模な給水活動を行うとともに、四国の他の三県等からの応援給水を受けました。また、満濃池土地改良区は、県渇水対策本部の要請を受け、満濃池の貯水を建設途中の香川用水東部幹線用水路を使用して高松へ緊急送水し、高松市民の窮状を救済しました。8 月に台風 10 号による降雨があり、それ以降断続的に雨が降るようになりました。<高松百年史編集室編「高松百年史下巻」1989 年、満濃池土地改良区「満濃池史」2001 年など>

